

# 「学び合い」が持続可能となるために

浜田小が「学びのパイロットスクール」であり続けるには

2020.01.28

No.88

校長 渡邊 幸二

## プロフェッショナル 仕事の流儀「答えは、子どもの中に～数学教師・井本陽久～」

みなさんは、この先生の授業をどう感じたのでしょうか。「これだ！」と思った人、「教科書使わないなんて、そんなのダメじゃん！」と思った先生…。さまざまあっていいのだと思います。まさしく答えはないのですから。でも、グループトークの議論を通して、自分の教育者としての芯を磨いていってもらえたらと思います。できれば



揺るがない芯となるまで、他者の声に耳を傾け、批判にも晒されながらも残り、より強固なものとなる教育者としての矜持です。自分が求めている教育の道筋というか、困ったときの判断の拠り所のような信念です。

## ビデオトークをするわけ

なぜいつも、浜田小ではこんなグループセッションのような職員会議をするのか…。それは、これが世の中の課題解決のスタイルであるからです。私たちが今授業でやっている子どもたちの「学び合い」と同じだからです。その中で、ラストマンとしての自分を鍛えていくということです。（そう言えば、今日の6年生の算数の課題は、「もしあなたが経営者なら、どちらを選ぶ？」でした。）



もう一つの理由は、グループトークにより、自分を磨くためです。「疾風に勁草を知る」ということわざがありますが、まさにそういう議論の中で自分が磨かれていくからです。ああでもないこうでもないという議論（対話）の中から、ゆるぎない信念を持った自分が見えてくるからです。

11月の授業研で森田先生がこうおっしゃっていたのを覚えていますか。

**「知識量で問われると（わからない子どもたちは）つらい。しかし、探究する能力で問われると大きな差はない！」**

こういう会議スタイル（＝学び合い）では、若手・ベテランに発言の差はないと感じています。聞いていてとても面白いというか、「なるほど！」と感心させられることばかりです。昨日、あなたは自分自身を開示し、仲間とセッションできましたか？できていれば、「探究する」ということを、実体験を通して子どもたちにも伝えていくことができると思います。「対話」というイメージもきっとわかってもらえるでしょう。そして、やがて、新学習指導要領が目指す「主体的、対話的で深い学び」を体現していくでしょう。

## 教師自身がアクティブラーナーたれ！

我々自身、答えのない問題に毎日晒されています。どうやるのが正解なのかなんて、校長も、教育委員会も、誰もわかりません。井本先生がやっている授業が正解なのでしょう？それもわかりませんし、井本先生も「わからない！」と言っていました。だから、我々が自ら率先して課題解決に向かうアクティブラーナーでなければならないのです。そういうことができない先生は、残念ながら、若かろうがベテランだろうが、まちがいなく「妖精さん」になります。

おそらく、昨日のビデオトークで、本校の目指す授業の姿が、そしてこれからの教育に、また未来を生きる子どもたちに何が大切なことかにみなさん気づかれたでしょう。人事異動により、来年度の経営体制、学校の運営方法は変わるかもしれませんが、この授業の方向性は絶対に変えてはいけない部分です。なぜなら、今の浜田小学校の授業スタイル（スタイルとは言えないが）、間違いなくこれからの学びの姿（「主体的、対話的で深い学び」）だからです。

浜田小学校がこれからも「学びの共同体」の、完全にそうでなくともそういう学び合いを目指している学校（パイロットスクール）であるためにも、今感じている授業への情熱、面白さを先生自身をもっと燃やし続け、グループトークで語り合い、放課後に職員室で語り合い…。そんな心をオープンにした熱い教師であってほしいと願っています。そして、浜田小はもちろん、この灯を飽海に、世の中全体に灯していったほしいなあと思っています。

